

令和7年度 第3回 行財政改革推進会議 議事要旨

[日 時] 令和7年10月10日（金） 午後6時

[場 所] 昭島市役所 3階 庁議室

[出席者]

1 委員

田中啓之委員長、荒井康裕副委員長、小池満也委員、山下俊之委員

2 事務局

池谷企画部長、女屋行政経営担当課長、渡邊財政課長、板谷主任、新妻主任

3 傍聴者

なし

[配付資料]

- ・令和7年度第3回行財政改革推進会議 次第
- ・令和6年度評価シート（案）
- ・昭島市中期行財政運営計画の策定にあたって（提言）（案）

[議事要旨]

1 開会

2 議題

（1）昭島市中期行財政運営計画 令和6年度の評価について

基本方針3「自主財源の確保と健全な財政運営の維持」及び基本方針2「効果的・効率的な行財政運営」について、各委員より質疑。

〈質疑応答〉◆は委員、○は事務局の発言要旨

【基本方針3（4）財政見通しを踏まえた基金の積立て（5）財政健全性の維持】

◆経常収支比率について、普通交付税不交付団体になったこともあり、人件費と物価の高騰で、上昇率が高い。他市と比較しても高くなっているがどのように考えているのか。【小池委員】

○経常収支比率について、令和5年度に大きな法人市民税が入ってきた関係で、令和6年度はその影響を受け普通交付税が不交付になったので、歳入の状況が他市とは違って、非常に低い状態になっている。その影響を排除した形で、経常収支比率を試算すると、おおむね令和5年度が90.7%、令和6年度の決算が92.5%で、26市よりは若干上になっている状況。歳出を見ると、令和5年度の数値は人件費と扶助費と繰出金が、26市と比較すると高く出ている。【事務局】

◆一過性か。改善の見込みは。【小池委員】

○一過性の状況を排除しても、令和6年度は92.5%なので、若干上回っている。26市の状況によるが、あとは市税がどこまで追いついてくるか。現在、昭島市の人口が26市の中でも著しく増になっている状況なので、26市の平均と比較すると、市税の状況によって改善の可能性はあると思う。歳出を見ると、26市の状況は一緒だが、やはり人件費の高騰、人件費というのは物件費や委託費等にも関わってくるので、なかなかその圧縮は難しいと捉えている。【事務局】

(個別評価、評価について、事務局案にて委員了承)

基本方針3 (1) 市税の収納率向上に向けた取組の推進

◆納付方法として、多様な方法が出てきている。滞納繰越分はある程度の水準を保っている。納付方法の多様化は、収納率の改善に寄与していると言えるのか。【田中委員長】

○いかにその現年分を滞納繰越に移さないかという努力が必要だと思う。多様な納付方法により、収納率が一定の水準を維持されていると捉えている。【事務局】

◆電子照会システムについて、これが便利になると預貯金の照会がより機動的にできるので、滞納者に迅速な対応ができ、収納率の向上につながると思うが、このあたりの見通しは。【田中委員長】

○現在、庁内で課題となっているのは、費用対効果。これまで複数人の職員が携わっていた業務の人員削減ができ、その人員を他の部署に回せることにもなるので、庁内全体の人の配置も踏まえて考えていかなければならない。例えば、これを導入する納税課についても滞納者への対応というところではかなり効率化が図れるため、新たな人員配置を踏まえた上で導入していくかなければいけないと捉え、調整を図っている。【事務局】

(個別評価、評価について、事務局案にて委員了承)

基本方針3 (2) 更なる歳入の確保

◆今後の取組方針について、拝島駅前の跡地利活用について応募がなかった背景は。【田中委員長】

○当該跡地については、市の公有財産の中で、まだ具体的な活用が決まっていない。この跡地を障害者の施設として使いたいという話が以前あったが、実際プロポーザル等をかけている中で、最終的には辞退が出来てしまい、具体的な活用に至らなかったという経緯がある。今年度、また新たに障害者施設として跡地活用していくということが政策決定しているので、事業所と調整の上、なるべく早く決めていきたい【事務局】

(個別評価、評価について、事務局案にて委員了承)

基本方針3 (3) 時代の変化に対応した事務事業の見直し

◆見直しによる効果額の累計が約8億円というのは、ずいぶん少ないと感じる。【山下委員】

○昭島市の場合、元々の事務経費を積算するところでかなり厳しく精査している。そこをさらに職員目線で評価をして、少しづつでも削っていこうという形での事務事業評価を実施している。例えば、これを外部目線で大胆に精査すれば、もっと大きい経費が削減できると思うが、この事務事業評価のやり方自体が職員目線であるため、その累積がこういった形で出ている。【事務局】

◆他市の話を聞いていると、予算規模の1割位は減らしているようである。市によってやり方が違うので、直接的に比較できないが。【山下委員】

○1 年度の予算の 1 割となればそれは相当な額である。事務事業評価のやり方 자체を変えていく時期だと考えている。【事務局】

◆昭島市は、人件費の増減について、減らしたところと増やしたところをトータル額が変わらないという理由で計算に入れていないのだと思うが、減の部分で行革の成果に入れておけば、増えたのはまた別な需要だとして計上していく。そうすると、削減額としては上がると思う。目に見えて金額がすぐに出るのは、人件費が多い。年齢的な構成は若い人に変わっているが、トータルで事業そのものも増えているから、それはやむを得ないものとして我々も認めている。マイナスはマイナスで、プラスはプラスで計上するのが一番良い。【山下委員】

○事務事業評価のやり方について検討が必要だということは課題として捉えている。【事務局】

(個別評価、評価について、事務局案にて委員了承)

■ 基本方針 2 (2) 公共施設マネジメントの推進

◆最近、建築費が上がってきてるせいで全国的にも入札の不調が増えていると思う。計画を変更していくかないと立ち行かなくなる。基金はだいぶ積み増しできているが、それを上回る高騰があるのでは。【山下委員】

○おっしゃる通り、ここ 2 年間ぐらいで傾向が変わってきた。今まで、返す以上に借りないということを基本方針に、起債が減り、基金が増える傾向にはあったが、ここ 2 年の労務単価の上昇や物価高騰のあおりを受け、起債の方に少しシフトしていくような流れもある。公共施設の老朽化が進み、建て替え等の必要もある中で、今後改めて起債というものに目を向けていかないといけない。いわゆる将来世代に負担をしていただく形になる。【事務局】

◆総合基本計画が定めている 10 年のスパンで見たときに、相当する年代に応じて実施すべき項目がある。その総額について、もちろん事務局の方で把握していると思うが、計画的に割り振り、その工程表の見直しをしているということか。【小池委員】

○ご認識の通り。公共施設については向こう 20 年のスパンで必要経費と不足額、それに対してどのくらい公共施設の面積を縮減していかなければいけないのかというところを調整している。【事務局】

◆令和 6 年度の取組で、下水道ウォーター P P P の検討実施という文言があるが、これはどうい ものか。【荒井副委員長】

○下水道施設への P P P 導入について国の指針が示されたため、令和 9 年度に向けて検討を進めている。令和 6 年度は検討段階だったが、今年度は市域の一部に導入していく。導入しないと国からの交付金が減額されることもあり積極的に行っていく。【事務局】

◆この項目の評価は B としているが、令和 5 年度には無かった内容なので、応援する側とすれば、もっと高く評価しても良いと思った。【荒井副委員長】

○主管課によると、下水道のウォーター P P P に関しては検討していない自治体もあるので、昭島市はかなり先行しているが具体的な動きは来年度からと考えている。【事務局】

(個別評価、評価について、事務局案にて委員了承)

■ 基本方針 2 (3) 民間活力の積極的な導入

◆窓口 D X について、令和 5 年度は委員会を設置し 6 年度以降導入に向けた検討を実施するとい うことだが、現状はいかがか。【山下委員】

○書かない窓口に関して言えば、令和6年度末の2月頃から試行的に始めて、現在は本格運用している。【事務局】

◆市によっては窓口業務を委託化しているところも多い。それも含めて、ここで検討したのか。
【山下委員】

○ご認識の通り。検討の結果、昭島市は会計年度任用職員をもっと積極的に窓口職場に配置したほうが効果的であると考えている。民間委託も検討したが近年の労務単価上昇と比較し、民間委託にするより、会計年度任用職員を採用して配置した方が効果的。【事務局】

(個別評価、評価について、事務局案にて委員了承)

基本方針2 (4) 広域連携の推進

◆前年度と比較して、実施した内容については認められるがこの内容で評価がBからAになったとは言い難い。他市との交流は確かにしているが、連携となると若干弱いような気がする。【山下委員】

◆Bの評価が適当では。【田中委員長】

◆個人的にはBで十分だと思っている。事務事業解決のための連携となると、この内容だと寂しい。課題解決・メリットを生かしながらと書いてあるが、事業を通してどのように連携しているかが見えてこない。【山下委員】

◆令和5年度と6年度であまり大きな違いがないため、評価はBとする。【田中委員長】

(個別評価、評価について、事務局案を修正の上委員了承)

(2) 昭島市行財政運営審議会への提言（案）について

昭島市中期行財政運営計画の策定にあたって（提言）（案）の資料について事務局より説明し、各委員より質疑。

〈質疑応答〉◆は委員の発言要旨

◆他の計画で計上しているものを、行財政運営の面から改めて評価しているが、行財政運営計画としてはいかがなものか。次期計画の内容には後期の総合基本計画に挙がる項目を盛り込むべき。【山下委員】

◆細かいテーマを提言に記載するより、行財政の観点から横串を入れるイメージが良い。また、各取組について他市との比較をもっと充実すべき。【田中委員長】

(3) その他

事務局より、現段階の評価シートを主管課にフィードバックすること、報告書の作成と市長への報告等の今後の流れを説明し、各委員の了承を得て閉会とした。なお、報告書については、本日の議論をふまえて事務局にて内容を修正し、修正案を各委員にご確認をいただいた上で最終版を策定する。次回会議は、書面開催とする。その後、12月中に本会議を代表して田中委員長より市長へ報告していただくこととする。